

～その時、どう行動する！ 安心を紡ぐ一歩～

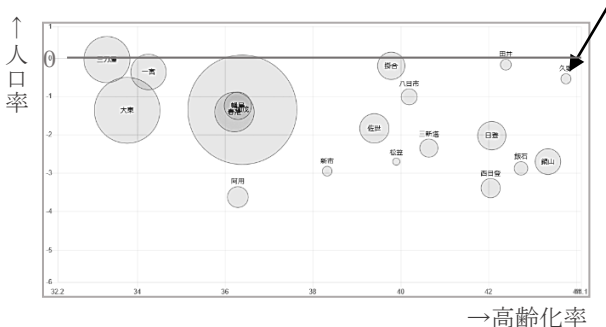
雲南市 久野地区振興会

1 久野地区の概要

久野谷3里と言われ、谷に挟まれた細長い地帯である。

人口553人 世帯数180戸、うち一人世帯数19戸、高齢化率43.76%である。

5年前に久野小学校が閉校になり、この機会に久野地区の課題を検討するため、久野地区活性化専門委員会を立ち上げ、その1つとして安全安心で活力ある久野地区になるよう地区計画を策定した。久野



上記のグラフは、雲南市内の人口増減率と高齢化率を比較したものである。人口の減少率は、雲南市平均と比べると少ないものの、高齢化率は高いことが分かる。

2 事業の趣旨

(1) 地区計画策定の際に、中学生以上を対象としたアンケート調査を実施した。

活性化に関するアンケートと題して、久野地区の「地域づくり」はどのような方向性をめざすのが望ましいと思いますか？の問いに多くの意見が出たのは、高齢者が安心して暮らせることが最も多く、続いて住民が互いに助け合うと続いた。災害対策、防犯を重視は7番目。それ以外にも、3～5年後の久野地区がどうなってほしいかの希望する姿について、「安心して暮らせ

る対策がある。」「防災対策ができている。」「人材育成・交流活動の活性化。」という意見があった。

(2) 安全安心の久野地区をめざして、久野地区自主防災委員会を3年前に立ち上げ、初年度は、役割分担表や各種名簿を作成し、昨年は下記の内容の事業を行った。

ア. 消防水利の調査

イ. 雲南市の災害警戒時の動きを学習
ウ. イマジネーションを通して、災害が起きた時に自分がどう動くのかを考える

エ. 防災士と住民で現地踏査と防災マップの作成

オ. 災害を仮定したタイムイマジネーショントレーニング

(3) (2)の次段階として、防災活動を通じてリーダーとなる人材育成及び、子どもや若者世代の活動への巻き込みを図り、未来に繋がる持続可能な地域づくりを試みる。

3 具体的な取組内容

(1) リーダー育成プログラム

<ステップ1>

防災訓練に向けた準備会議

防災役員・委員が集まり、避難訓練に向けて模擬訓練を行う。



防災訓練に向けた準備会議の様子

<ステップ2>

避難訓練

避難訓練に向けて、参加者名簿作成、本部及び各自治会別に訓練プログラムを作成。

プログラムに沿って避難訓練を実施。



自主避難所に避難時の住民の様子



自主避難所から連絡を受け整理する本部
<ステップ3>

避難所運営学習会



各班別に何が必要か等について話し合う

(2) 子どもや若者の活動の参加促進

<ステップ1>

サバイバル技術の習得（基礎編）



斧の使い方や杭の打ち方を学ぶ

<ステップ2>

サバイバル技術の習得（応用編）



夢実現プログラムよりカラフル壁を作る

4 評価と成果

避難訓練を前提として、準備会議を行った事で、動きのイメージを持つ事が出来た。

課題として、準備が整いすぎていた点があり、スケジュールに沿ってスムーズに進みすぎたことが挙げられる。

サバイバル技術の習得では、事前に子ども達の夢実現プログラムが組み込んでおり、その実現を行った。また、その親や地区外からの参加もあり交流にもつながった。

5 今後の課題と見通し

今回の学習後反省会を行ったところ、改善点や、今後の活動の継続の声が多く聞かれた。より充実した取組の継続に向けて、マニュアル化や、いろいろなパターンに対処できるよう試行錯誤しなければならないと認識した。

(文責：集落支援員 長妻美保子)